

2008年3月31日

Daily comment

3月決算期末の悪夢

週明けのドル/円は、早朝ウェリントンから急落スタートとなり一時 98.80 円まで下落したが、年度末最終日の仲値に向けた国内輸入企業のドル需要で一時 100.20 円へ急上昇した。

保有外貨資産の評価額を少しでも押し上げたいとお化粧品買も指摘されるが、例年 3 月最終日は仲値決済でのドル不足観測からドル高が盛り上がる一方、決済一巡後には反動からドルが急落する傾向にあるため、15 時以降の値動きには特に注意を要したい。

以下は筆者のトレード・メモの「季節的要因での要注意イベント」に記してある本邦年度末・最終日の中値設定後の動向からの抜粋。特に急激な円高に振れた 2000 年 3 月末、2003 年 3 月末、2004 年 3 月末の事例を示したのでご参考にされたい。

2000 年 3 月末の場合：年度最終日の仲値 106 円 Low NY タイムで一時 102.03 円

2000 年 3 月 31 日のドル/円は、本邦決算期末の公示レート決定に向けた実需のドル買いに、辛うじて 106 円台を確保したものの、その後は海外勢の仕掛けたドル売りに圧迫され、ギリ安基調を辿った。東京タイムを 105.27 - 30 レベルで引けた後、まるで決算期末終了による取引解禁を待ち構えていたかのようなユーロ売り・円買いの波が押し寄せ、心理的なサポート水準として死守されてきた 1 ユーロ = 100 円レベルがブレイクされると、パニック的な売りに下げ幅を拡大、一時 97.55 円と最安値更新に至った。ドル/円もクロス円の売りに圧迫される地合いのなか、重要なチャート・ポイントとして注目された 104.60 レベルがブレイクされると、主要な Stop Loss を次々と巻き込んで下げ幅を拡大、NY タイムでは一時 102.03 円を示現した。翌週 4 月 3 日には、『日銀短観』の発表と同時に当局がドル買い・円売りの市場介入に踏み切り、103 円 Low から 105 円 Mid へと押し上げられた。

2003 年 3 月 31 日の場合：年度最終日の仲値 120.20 円 NY タイムで一時 117.83 円へ急落

3 月末の公示レートは、120.20 円と 120 円台を確保(当局による 120 円超の円安誘導との憶測が出回った)したが、イラク戦局の先行き不透明感が潜在的なドル売り圧力を呼び込む形となり、開戦後の安値を大幅に更新、NY タイムでは一時 117.83 円まで下落した。

2004 年 3 月 31 日の場合：年度最終日の仲値 105.69 円 NY タイムで一時 103.40 円へ急落

3 月決算期末日の仲値需要を期待した先行的なドル買いで 105.92 円まで上昇したが、仲値公示後は想定外のドル余剰感から売りが優勢となった。さらに 10 時過ぎにテキサス州で発生した大手石油精練所爆発報道で投機筋を中心とするドル売りに拍車がかかり、心理的な節目と見られてきた 105 円を割り込み、欧州タイム序盤には一時 103.40 円までドル安・円高が進展した。ユーロ/円が 129.05 円から 126.60 円へ大幅続落するなど、クロス円の売りが円独歩高に拍車を掛ける形となった。

(3月31日 13:40 記)

当レポートは、投資の参考となる情報提供を目的としたもので、投資勧誘を意図するものではありません。投資の決定はご自身の判断と責任でなされますようお願い申し上げます。記載された意見や予測等は、作成時点における 森 好治郎 個人の見解であり、その正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることもありますのでご留意ください。